

かけはし

黄の3組
～秋のダイナミックワールド号～

「秋のダイナミックワールド」において、黄の3組で展開されている遊び、その遊びが始まったきっかけなど、ご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

身近な素材（お菓子の空き箱、ペットボトル、牛乳パックやサランラップの芯など）を使って、車やネックレス、出合った昆虫などをつくり、いろいろな工作をしてきた子どもたち。「先生、ヨーグルトのカップ遊びに使えるかな?」「お菓子の箱(空き箱)、持ってきたよ」などと、おうちから身近な素材を持ちよる姿も見られるようになりました。子どもたちは、自分たちの遊びに必要なものを、どの素材を使いつくっていったらいいか、みんなで探究中です。

★ 身近な素材をつかって 手裏剣ボックスゲーム ★

折り紙で手裏剣をつくっていたことから、始まった遊び。



「合体するのがうまくできない」と折り紙での手裏剣づくりに苦戦していた子どもたち。画用紙や厚紙を使った、自分たちでもつくりやすい手裏剣を考え出していきました。



手裏剣を投げて遊び始めた子どもたち。段ボール箱を持ってくると、ある子から「ここに穴をあけよう」とう意見が。保育者が穴をあけると…。



穴を的に遊びだし、「簡単に入るところは低い点数、難しいところは高い点数がいい」とルールが生まれてきました。景品もほしいという意見も出て、金銀銅メダルも作成中です。

★ 身近な素材をつかって たこ焼き屋さん ★

新聞紙を丸めたりちぎったりして遊んでいた子どもたちから生まれた遊び。



「クシュクシュってできておもしろいね」「お団子できたよ」と、新聞紙で遊んでいた子どもたち。「ガムテープでとめれば強くなるよ。見て! たこ焼き」とつくり始めました。



「美味しそうなたこ焼きにしたい」とう声。新聞紙で丸めたたこ焼きに和紙を貼り、絵の具で色をつけました。小さく切った折り紙を青のりのかわりにつけ出来上がり!!!



卵パックや空き箱をお皿にしたり、段ボールを調理台にしたりと、お店に必要なものも身近な素材でつくり、たこ焼きやさんが盛り上がってきました。

★ 身近な素材をつかって フリスビー ★

紙飛行機をつくっては飛ばして遊んでいた子どもたち。同じように飛ぶものはないか試していたことをきっかけに始まった遊び。



「紙飛行機のほかに飛ぶものないかな?」と探していた子どもたち。身近にあった紙皿を投げてみると…「やったあ〜! 飛ぶ」



紙皿がよく飛ぶように工夫をこらし、飛ぶ距離を競っているうちに、「的がほしい」という意見も。



「的が重いと倒れないね」「ペットボトルがいいかな?」と身近な素材の中から、倒れやすく丈夫なものを選び、友達と遊ぶ姿がみられます。

★ 身近な素材をつかって ドングリわなげゲーム ★

園外保育でみつけたりおうちから持ってきたりしたドングリや木の実を転がし遊んでいたことから始まった遊び。



子どもたちからドングリで遊びたいという意見が。ドングリの数が少ないことから、みんなでどうしたらいいか考え、新聞紙でドングリをつくることに…。



出来たドングリでいろいろな遊びを始めた子どもたち。ドングリが不安定なのでボトルキャップを付けることに。そのドングリめがけて新聞紙の輪を投げる「輪投げ」へと発展。



床に置くと低くてやりにくいので高くすることに。ドングリを牛乳パックに合体させ机の上に置き高さを出す工夫を思いつきました。

★ 身近な素材をつかって 自由工作とごほうびづくり ★

身近な素材をつかって様々な物をつくりあげていた子どもたち。遊びの景品もつくりたいと生まれた遊び。



ティッシュの空き箱やラップの芯、牛乳パックなど、合体させては、いろいろと見立て自分のつくりたい物を制作しています。そのなかで遊びながら素材の特性に気づいている子どもたち。つくるのが楽しいようです。



ゲームや遊びがもっと楽しくなるために、「ごほうびの景品があった方がいい」との意見が。どんな景品がいいか試行錯誤しながら制作中です。



ゲームや遊びがもっと楽しくなるために、「ごほうびの景品があった方がいい」との意見が。どんな景品がいいか試行錯誤しながら制作中です。